

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-104	高等学校	外国語	英語表現 I	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	英 I 323	CROWN English Expression I New Edition		

1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書は、「話す」「書く」を中心とした基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、聞いたり、読んだりして得た知識や情報などを、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信できるような思考力・判断力・表現力を身につけられることを目標に編集した。そして、次の3点を教育理念とした。

- 1) 「ことばの教育」に資する・・・コミュニケーションのための知識・技能の習得とともに、論理的思考力や批判的思考力を養い、豊かな言語観を育成する。
- 2) 「国際理解教育」に資する・・・ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、海外におけるさまざまな民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく、地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解の基礎を培う。
- 3) 「人間教育」に資する・・・今日のグローバル社会に生きる子どもたちに、特に話したり書いたりすることを通して、人間としての生き方やものの見方や考え方、ならびに世界観にも目を向けさせ、社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

2. 編修の基本方針

- 1) 4技能における、特に「話す」「書く」活動を通して、ことばと人間との関係やことばと社会との関係など、広くことばへの関心を高め、より豊かな言語観を育てる。
- 2) ことば、文化、民族などの多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。
- 3) 特に「話す」「書く」活動の上で必要な、言語能力の本質としての思考力の養成を土台として、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。
- 4) 実際のコミュニケーションにおいて、生徒の興味・関心を喚起する話題やテーマを提示すると共に、「言語の使用場面」の明確化と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を目指す。
- 5) 特に中学で履修した「話す」「書く」ための基礎的な能力を更に伸ばさせながら、4技能における言語活動の統合的な関連を図る。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材(テーマ)	① 取り扱う題材(テーマ)は、生徒の知的欲求に合致するものを選択した。(第1号)	各 Lesson / 各 Express Yourself
	② キャリア教育(第2号)、平和教育(第5号)、科学教育・環境教育(第4号)、生命の尊重(第4号)、正義と責任(第3号)、および国際理解教育に結びつくものとして、わが国の伝統文化や他国の文化を扱ったもの(第5号)を配置した。	自分の将来について考える(第2号) Lesson 10 平和を考える(第5号) Lesson 2, 5 科学・環境に関心を持つ(第4号) Lesson 4, 7, 9 生命の尊重(第4号) Lesson 4, 5, 8, 10 正義と責任(第3号) Lesson 5, 10 日本の伝統文化(第5号) Lesson 3 他国の文化(第5号) Lesson 1, 6
言語活動	① 各課の言語活動は、取り組む生徒の個性、創造性が発揮されるようにした。(第2号)	各 Lesson / 各 Express Yourself
	② ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して活動に取り組めるよう配慮した。(第3号)	各 Lesson の TRY
登場人物	登場人物の配置及び活動においては、男女・出身地域のかたよりがないよう配慮した。(第3号、第5号)	各 Lesson / 各 Express Yourself など
構成	学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイント、などが生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。(第2号)	はじめに / 各 Lesson / 各 Express Yourself など

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 1) 日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、題材、活動の面で配慮した。
- 2) 外国の文化については、英語を母語とする地域のみならず、国際理解の観点から他の地域の文化についても扱った。
- 3) ことばへの関心などについても、多面的に考えることができるように扱った。
- 4) 自分の考えを論理的に発信することができ、また国際理解の観点からも、他の国の人と積極的にコミュニケーションを交わすことができる態度を養えるように、トピックや活動の面で配慮した。
- 5) 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油、およびそれらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-104	高等学校	外国語	英語表現 I	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	英 I 323	CROWN English Expression I New Edition		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」、および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列と各領域などの系統・内容に関して、以下のことに特に意を用いた。

A. 基本方針

1. 多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
2. 中学校の外国語科(英語)の内容を踏まえて、中・高の接続が円滑に図られるように配慮する。
3. 「話すこと」「書くこと」を中心とした4技能のバランスを考慮するとともに、特に論理的に表現する能力が育成できるように構成、内容を工夫する。
4. 教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮する。
5. 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、およびそれらの知識や技能を実生活の中で活用できる力を、繰り返し、段階的に育成できるような教科書構成にする。
6. 「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た情報などを基にして、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力が養えるように配慮する。また、そうしたコミュニケーション活動や体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することができる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
7. 学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、設問や活動などを工夫、充実させる。

B. 本書の特色と編集上の留意点

1. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりをもたせた。

2. 題材内容

- 1) 「話すこと」「書くこと」のためのテーマとして、ことばの教育、国際理解教育(異文化理解教育)、人間教育の観点を基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、興味を喚起する内容にした。
- 2) テーマは、学校生活、スポーツ、日本の伝統文化、芸術、地球環境問題、国際協力、言語、歴史、科学・技術、人物、人間としての生き方など多様な内容にした。
「話す」「書く」ための形式は、スピーチ、プレゼンテーションなどを基本とした。
- 3) テーマの設定や登場人物は、英語が広く使われている現状と国際理解との関係から日本人を中心にし、特に高校生が実際に「話す」「書く」という状況を重視して、より現実と遊離しない状況を設定した。

3. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、「話す」「書く」活動をする上で、活発で多様な言語活動が展開できるように配慮した。
- 2) 「文構造」「文法事項」は表現活動に活用することを基本として精選し、「話す」「書く」上で必要と思われる基本的な事項を扱った。
- 3) 本書の導入部として「はじめに」を設け、中学校における基本項目の確認とし、本課に負担なく移行ができるように配慮した。
- 4) 「語」は、コミュニケーション英語 I 程度の範囲で、表現活動に必要と思われる語彙・連語を精選して取り上げた。また、巻末には「語彙集」として基本的な語彙を掲載した。

4. 言語活動

言語活動は、「話す」「書く」必然性を重視し、「言語の使用場面」を具体的に提示すると共に、4技能の統合的な関連が図れるように、各 Lesson の導入部の英文、各 Express Yourself の Input および Output など、形式を工夫した。また、「言語の働き」にも留意し、「話す」「書く」上で多用される表現についても、中学校までの学習を踏まえながら、基本的なものを精選し、系統的に扱った。

C. 本書の構成と内容

1. 構成

- 1) 全体構成は、Lesson (1～10) と Express Yourself (1～10) を中心とした。各練習は、「話す」「書く」技能の習得を目指す教材としつつ、4技能の言語活動が総合的・統合的に行われるように配慮した。
- 2) 各 Lesson では、学校生活、スポーツ、環境問題など身近なテーマの中で、自分のことに置き換えて即興で話したり、簡潔な文章を「書く」練習をする。
- 3) 各 Express Yourself では、スピーチ、プレゼンテーションなどを想定し、「発表に必要な表現」や「つなぎ言葉」などを使って、「話す」「書く」の練習をする。

2. 各 Lesson の構成と内容

- 1) 導入部の英文: 「話す」「書く」ためのトピック文。
- 2) 名言コラム: この課の中心となる表現を含んだ名言を提示。
- 3) Start-Up Grammar: 話したり書いたりする上で、基本となる事項の提示。
- 4) Grammar: 「話す」「書く」際によく使われる表現を提示。
- 5) Exercises: Lesson の表現項目を、いろいろな練習を通して確認する。
- 6) TRY: 提示された英文を参考にして、自分の考えを簡潔に話したり、書いたりする。

3. 各 Express Yourself の構成と内容

- 1) Input: この課の題材に関する情報を Listening の形式で導入。
- 2) Output: Input の情報に基づいて、発表したり、提示したりする原稿の作成。
- 3) Tool Box: Output や TRY で使われる「発表に必要な表現」や「つなぎ言葉」を提示。
- 4) TRY: テーマに基づく課題を、ガイドにしたがって完成させる。
- 5) Words & Phrases: TRY で使うことができる語彙を提示。

4. 各「文法のまとめ」の構成と内容

- 1) 「問題編」: 表現するために必要な文法項目の復習を、3箇所配置。
- 2) 「解説編」: 学習者が間違いやすい表現項目に焦点を当てた解説と問題を、3箇所配置。

5. 巻末に、「各課の基本例文」「Express Yourself Scripts」「つなぎ言葉一覧」「文法のまとめ: 解説編【解答】」「動詞の活用ほか」「発音」「語彙集」「索引」を設け、学習上の配慮とした。

2. 対照表

学習指導要領の内容		教科書の構成・内容
2 内容		
(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。		
	ア与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。	各 Lesson の TRY / 各 Express Yourself の TRY
	イ読み手や目的に応じて、簡潔に書く。	各 Lesson の TRY / 各 Express Yourself の TRY
	ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。	各 Lesson の TRY / 各 Express Yourself の TRY
(2)(1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。		
	アリズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。	各 Express Yourself の Output
	イ内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。	各 Express Yourself の Output、「つなぎ言葉」、TRY
	ウ発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。	各 Express Yourself の Output、「発表に必要な表現」、TRY
	エ聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。	Express Yourself 8
3 内容の取扱い		
(1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導するものとする。		各 Lesson / 各 Express Yourself
(2) 聞くこと及び読むこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、話すこと及び書くことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。		各 Lesson / 各 Express Yourself
(3) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を体験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。		各 Lesson / 各 Express Yourself
第3款 英語に関する各科目に共通する内容等		
1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせて活用する。		カリキュラム一覧表参照。
2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。		カリキュラム一覧表参照。
3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。		
	ア現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。	各 Lesson / 各 Express Yourself / 各文法のまとめ
	イ文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。	各 Lesson / 各 Express Yourself / 各文法のまとめ
	ウコミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。	各 Lesson / 各 Express Yourself / 各文法のまとめ

<p>4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。</p>	<p>省略。</p>
<p>第4款各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p>	
<p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。</p> <p>(2) 「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、「コミュニケーション英語Ⅰ」は「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に履修させることを原則とすること。</p>	<p>省略。</p>
<p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 教材については、外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。</p> <p>ア多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>ウ広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>エ人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。</p>	<p>カリキュラム一覧表参照。</p>
<p>(2) 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導することができること。</p>	<p>Express Yourself 2、付録6</p>
<p>(3) 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。</p>	<p>はじめに</p>
<p>(4) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うチーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p>	<p>各 Lesson の導入、TRY / 各 Express Yourself</p>

使用漢字、出典、音声スクリプト等

1. 常用漢字以外の使用漢字一覧表

この教科書における使用漢字は、下記以外は「常用漢字表」（平成 22 年 11 月 30 日内閣告示）に従っている。

「常用漢字表」に記載のない漢字

p.67	暢
p.93	祇
p.93	函
p.98	伊

なお、この教科書における送り仮名は、すべて「送り仮名の付け方」（昭和 48 年 6 月 18 日内閣告示）に従って表記してある。

2. 出典一覧表

この教科書の教材、挿し絵、写真、図版などの出典については、別紙「出典一覧表」を参照のこと。

3. 発音記号の表記に関する方針

原則として、主としてアメリカ英語の現代の標準的な発音を採用する。

4. 音声スクリプト・解答一覧

別紙「音声スクリプト」「解答一覧表」を参照のこと

(別記) カリキュラム一覧表

課	配当 時間	タイトル	英語言語材料	言語の使用場面
				言語の働き
Lesson 1	5	フィンランド	時制	スピーチ 説明する
Express Yourself	2	A School in New Zealand	分類・列挙	スピーチ 説明する
Lesson 2	4	2020 年東京オリンピック	助動詞	対話 依頼する
Express Yourself	2	Nishikori Kei	追加	スピーチ 注意を引く
Lesson 3	3	広重	受動態	スピーチ 報告する

Express Yourself	2	Cool Japan	例証	プレゼンテーション 理由を述べる
文法のまとめ	1	問題編①	時制・助動詞・受動態	
文法のまとめ	1	解説編①	動詞・冠詞	
Lesson 4	4	シロクマを救え！	不定詞	スピーチ 説明する
Express Yourself	2	An Eco-friendly School Festival	要約	スピーチ 説明する
Lesson 5	3	国境なき医師団	動名詞	対話 依頼する
Express Yourself	2	World Heritage Sites	結論	プレゼンテーション 描写する
Lesson 6	3	ロゼッタストーン	分詞	スピーチ 説明する
Express Yourself	2	Cultural Stereotypes	時間的順序	スピーチ 主張する
文法のまとめ	1	問題編②	不定詞・動名詞・分詞	
文法のまとめ	1	解説編②	動詞・名詞・形容詞・副詞	
Lesson 7	4	すばる望遠鏡	比較	スピーチ 説明する
Express Yourself	2	Mars	結果	プレゼンテーション 説明する
Lesson 8	4	神戸の鉄人 28 号	関係詞	スピーチ 勧める
Express Yourself	2	Antoni Gaudi	言い換え	スピーチ 誘う
Lesson 9	4	中央リニア新幹線	仮定法	スピーチ 仮定する
Express Yourself	2	Medical Technology	強意・驚き	スピーチ 主張する
Lesson 10	2	沈黙の春	接続詞	スピーチ 説明する
Express Yourself	2	Hoshino Michio	対比・逆接	スピーチ 賛成する・反対する
文法のまとめ	2	問題編③	比較・関係詞・仮定法・接続詞	
文法のまとめ	1	解説編③	和製英語・日常会話表現	